

岐阜県高山市でのマコWS実践事例

— ちゃいれじ2年目の挑戦 —



ちゃいれじ 鈴木康二・三原大史・土師唯我・金山真樹・小森沙耶香・八田友和

はじめに

1、ちゃいれじとマコWS

「ちゃいれじ」(チャイルド&レジリエンス)は、「**ホンモノ!?体感!!こどもときずくワークショップ**」をキーワードに、こどもの「知りたい」を応援するワークショップを企画・実施する団体である。ちゃいれじのワークショップ(以下「WS」)のひとつである「マコWS」は、真弧を通して考古学や歴史に興味をもってもらいたいという目的で開催している。

マコWSでは実際に真弧を使って実測を体験するとともに、身近な材料からオリジナルマコを作っていく。そして、完成したマコを使ってさらにいろいろなモノを測っていく。こうした「遊び」の中から、**参加者に考古学の面白さにきずいてもらうことがマコWS最大のねらい**である。



【考察】

アンケート回答者数は15人であり、定量的な調査には不十分であるが、全体の90%以上がマコWSに対して満足していたといえる。

自由記述欄に寄せられた意見からは、実測について、「はじめて知ることができた」、「家でも図ってみたい」といった意見があり、**考古学やその手法に関心を持つきっかけ**としての、マコWSの効果は十分に読み取れる。「本物の石器が見られた」というこどもにとっては、WSに参加して**ホンモノを体感**できたことが、そのこどもの中で**考古学がよりリアルなもの**になった事を物語っている。なお、今回用意した石器は、高山市内で見つかったものであり、高山市在住の参加者にとって、少なからず「身近考古学」の存在にも気づく契機にもなっていれば、と思っている。

まとめ

3、WSは1回限りじゃない！！

マコWSにより参加者に考古学への興味をある程度持ってもらうことには成功したと思う。しかし、次に目指すべきは参加者への継続的なアプローチではないだろうか。WSは主催者側にとって継続的な活動を行うことが重要なのではなく、参加者にとって継続的な体験となるべきであろう。ちゃいれじの目的は、こどもたちのレジリエンスを形成することにある。そのためにも、考古学だけでなく、その他の分野でも様々なアプローチを考案し、実施し続けていこうと思う。

また、参加者にとって継続的なアプローチの効果について、今後も参加者を対象にデータを収集し、分析を重ねて、より効果的なWSの開発・実施に活用していこうと考えている。

2、考古学の世界へいざなう！

2017年8月12日に岐阜県高山市の飛騨高山まちの博物館にてマコWSを実施した。WS参加者の合計は26名(内11名は見学のみ)であった。以下は、アンケートの集計結果と、WS参加者を対象に行ったヒアリング調査の結果である。

【アンケート集計結果】

《満足度調査》

非常に満足:7 満足:7 どちらともいえない:1
不満:0 非常に不満:0 (アンケート総数15)

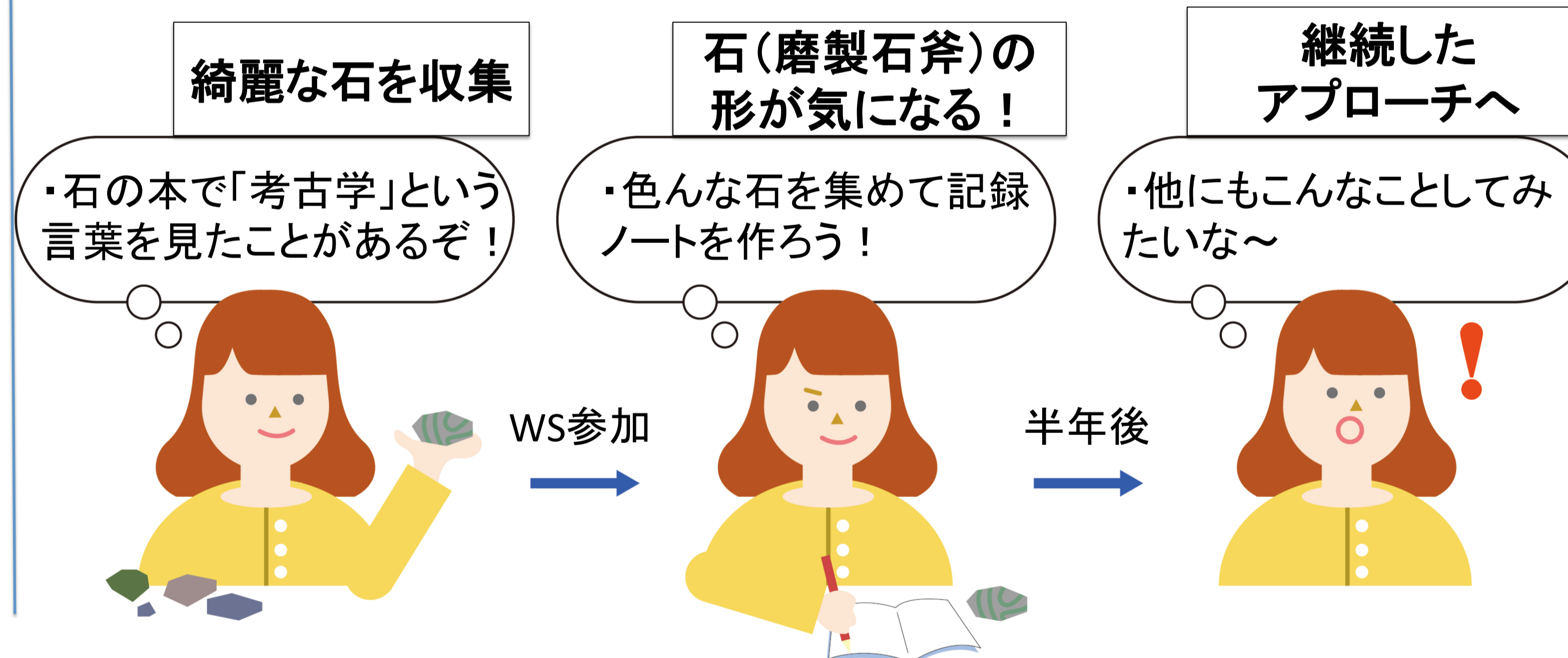
《こどもの意見》

- ・自分でマコを作るのが楽しかった
- ・本物の石器が見られた
- ・実測が面白かった
- ・初めてのことで勉強になった
- ・家でも測ってみたい
- ・もっと細かくていねいに作りたいかった
- ・マコに色をぬりたかった
- ・複雑だった

《大人の意見》

- ・土器の測り方がわかった
- ・マコを使って描くことで「見た形のままを自分が描けている」という充実感があった
- ・こどもが手を動かす、頭を使うところが楽しそうだった
- ・もっと時間があればよかった
- ・マコの幅を割り箸サイズや50cmものさしサイズなど選べるのもおもしろいかもしれない

【WS参加者へのヒアリング調査】



また、大人(保護者)から「こどもが手を動かす、頭を使うところが楽しそうだった」という意見をいただいた。マコWSには、**連続した遊び、連続した体験**という2つのエッセンスがあり、それが「楽しそう」なこどもの表情を喚起したのだとすれば、参加者(保護者)のこの感想は、WSそのものやその素材である考古学に対して好印象を感じてもらおう契機としては十分な役割を果たせたのではないだろうか。

マコWSに参加した児童A(当時小学校3年生)のヒアリング調査の結果を考察する。A児はWS参加以前より、考古学に興味があり、そうでない参加者との差は考慮しなければならないが、本WSによってA児が持っていた考古学への興味は、より具体化され、かつ少なくとも半年間継続されていた。今後のWSのアプローチとして、**参加者の関心が考古学から他にうつるまでに、考古学との接触の機会を用意**することが、考古学の普及には必要なのではないだろうか。

2018.4.21-22

第64回考古学研究会総会・研究会集會ポスターセッション】

本WSは、2017年度子どもゆめ基金助成金により実施した。

高山市教育委員会には後援をいただき、会場である飛騨高山まちの博物館のみなさんには大変お世話になった。

そして、当日WSに参加していただいた方のご協力によって今回の発表に至った。ここに厚く御礼申し上げます。

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」

